

建春門院(平滋子)

けんしゅんもんいん
・・・・・・・・1142 =

後白河天皇の女御。高倉天皇の生母。後白河に寵愛され、平氏隆盛の契機になるも、早世した。

鳥羽法皇の側近で兵部権大輔平時信の娘に生まれる。母は正妻権中納言藤原頼頼の娘祐子。

才知あり性格も従順で評判の良かった父が妾に産ませた平時子(のち平清盛の妻)や平時忠の異母妹で、また、父が美福門院の女房に産ませた平親宗の異母姉に当り、平正盛の娘政子に養育される。

・・・・・・・・1149 = 7歳 : 父が死去。

頼長内覧・・・・・・・・1151 = 9歳 :

保元の乱・・・・・・・・1156 = 14歳 :

後白河院政始1158 = 16歳 : この年、二条天皇が即位。上皇が院政に批判的な藤原経宗と藤原惟方を配流したことから、天皇と対立、

平治の乱・・・・・・・・1159 = 17歳 : この頃、後白河上皇の女房として出仕、美しい上に聡明だったことから、寵愛されて、

・・・・・・・・1160 = 18歳 :

・・・・・・・・1161 = 19歳 : *第4皇子**憲仁**を生む。立太子を画策した平時忠と平教盛が、天皇の逆鱗に触れて配流されるが、

この間も、上皇の寵愛は続き、

三十三間堂・1165 = 23歳 : この年、二条天皇が発病し、順仁皇子に譲位(六条天皇)して死去すると、上皇は憲仁親王宣下を果たし、

源頼政内昇殿1166 = 24歳 : ***憲仁が立太子するとともに、従三位に叙され**、

清盛太政大臣1167 = 25歳 : 女御の宣旨を賜る。上皇の熊野詣にも随行し、後宮史上稀有な出来事となる。

厳島神社・・・・・・・・1168 = 26歳 : さらに、上皇が六条天皇に譲位させ、憲仁が踐祚して高倉天皇となったため、女御滋子は立后して皇太后

になる。両親にも正一位が追贈され、父の追善法要は親宗が差配。皇太后宮職を立て職官を補任したが、職を止めて、女院に進み、建春門院と号し、新たに"院宮給"の利権年官年爵が始まるとともに、一門同族の出身を早め、自家の栄達を助成する策となって行く。全てを成し遂げた上皇は出家。

後白河出家・1169 = 27歳 : *職を止めて、女院に進み、建春門院と号し、新たに"院宮給"の利権年官年爵が始まるとともに、一門同族の出身を早め、自家の栄達を助成する策となって行く。全てを成し遂げた上皇は出家。

・・・・・・・・1170 = 28歳 : 法皇の熊野詣中、武門平氏を排除し、近親者中心ながら、盛大な歌合を開催。

・・・・・・・・1173 = 31歳 : 法皇が建春門院のためにと進めてきた最勝光院が落慶、その維持のため、法皇は莫大な荘園も施入。

藤原頼通没・1174 = 32歳 : 法皇に従って厳島御幸し、後宮史上例のない后妃を具した遠路旅行となり、

・・・・・・・・1176 = 34歳 : *法皇とともに摂津有馬温泉に御幸し、天皇らとともに湯治した初めての后妃となるなど、寵愛され続けたが、まもなく発病し、院号・年官年爵を辞して、没した。